

平成22年度胆振管内観光入込客数の状況について

北海道胆振総合振興局

平成23年7月

1. 概要

胆振管内の平成22年度(平成22年4月～平成23年3月)の観光入込客数は14,840.4千人となり、前年度(15,146.5千人)に対し306.1千人の減少(前年度比98.0%)となり、3年連続の減少となりました。

平成22年度上期においては、口蹄疫発生の影響による相次ぐイベントの中止などから、一部の地域で入込客の減少が見られたものの、好天等による一部イベントへの入込客の増加や、平成21年10月に新設された「道の駅ウトナイ湖」への入込客の増加などに加え、インバウンドでは、7月の訪日中国人の観光ビザ取得要件の緩和、アジア地域の景気回復や北海道ブームの影響によるアジアを中心とした訪日外国人旅行者の大幅な増加もあったことから、胆振管内全体では前年度同期と比べて観光入込客数は微増(101.5%)となりました。

一方、下期においては、中東や北アフリカ情勢の悪化に伴うガソリン価格の高騰、9月に発生した尖閣諸島沖の中国漁船衝突事件による訪日中国人の減少、さらに3月11日に発生した東日本大震災の影響によって国内旅行者及び訪日外国人旅行者が減少したことにより、胆振管内全体では前年度同期と比べて観光入込客数は大幅に減少(92.6%)しました。

平成22年度全体で見ると、上期は好調となったものの、下期が大きく減少となったため、観光入込客数は前年度よりも減少しました。

道外・道内別で見ると、道外観光客は4,805.5千人(構成比32.4%)で前年度比99.2%、道内観光客は10,034.9千人(構成比67.6%)で前年度比97.4%となっており、道外客、道内客ともに前年度よりも減少しました。

日帰・宿泊別で見ると、日帰客数は12,266.3千人(構成比82.7%)で前年度比98.6%、宿泊客数は2,574.1千人(構成比17.3%)で前年度比95.3%となっています。また、宿泊客延数は2,768.2千人で、前年度比95.5%となりました。

月別で見ると、上期には、一部の地域で口蹄疫発生の影響によるイベントの中止が相次いだものの、前年度において経済不況や新型インフルエンザの影響で減少していた道外観光客が、今年度になって回復したことから、4月～8月の入込客数は前年度同月よりも増加していますが、9月の入込客数に限ってみると、前年度がシルバーウィークにより好調となったことから、前年度同月比96.7%と減少しました。

一方、下期は、中東や北アフリカ情勢の悪化に伴うガソリン価格の高騰による道内客の減少や、9月に発生した尖閣諸島沖の中国漁船衝突事件による訪日中国人の減少のため、10月～3月の入込客数は前年度同月よりも減少しました。特に3月は、東日本大震災の影響により、前年度同月に比べて17.6%も減少しました。

【参考：平成22年度胆振管内観光入込客数内訳】

区 分		平成22年度		対前年度同期比 (%)	前年度同期から の増減数(千人)	備考
		観光入込客数 (千人)	構 成 比 (%)			
道内・ 道外別	道外	4,805.5	32.4	99.2	38.1	* 対前年度比で見ると、道内客、道外客ともに減少しています。
	道内	10,034.9	67.6	97.4	268.0	
日帰・ 宿泊別	日帰	12,266.3	82.7	98.6	178.5	* 対前年度比で見ると、日帰り客、宿泊客ともに減少しています。
	宿泊	2,574.1	17.3	95.3	127.6	
総 計		14,840.4	100.0	98.0	306.1	
宿泊客数延数		2,768.2		95.5	129.0	

2. 市町別状況

(1) 室蘭市(入込数：1,097.6千人 前年度比：99.2% 前年度増減数：8.4千人)

上期：6月の週末はおおむね天候が良かったこと、7月には市の一大イベントである「むろらん港まつり」(23～25日)が好天に恵まれたことなどから入込客数の増加に繋がったものと考えられます。一方、8月のお盆期間中(8～15日)は天候が悪かったこと、9月の連休は昨年のシルバーウィークより休日が少なかったことなどから、上期全体としては微減少に留まりました。

下期：10月と11月は概ね好天に恵まれ、本市を代表する景勝地「地球岬」などの屋外施設で入込客数が好調だったほか、前年度同期に入港のなかった客船が10月に入港したことや、年末年始のイベント「白鳥大橋カウントダウン」と「地球岬初日の出」が好天に恵まれたことにより、入込客数が増加しました。しかし、1月は平均気温が平年より低めに推移し、降雪量が観測史上2番目に多い数値を記録したため、屋外施設では大きな影響を受けました。加えて、3月には、中東、北アフリカ情勢の緊迫化に伴うガソリン価格の高騰や、11日に発生した東日本大震災が影響(風評被害、自粛ムード等)し、入込客数が減少したため、下期全体としては、ほぼ前年度並みの入込客数となりました。

(2) 苫小牧市(入込数：1,678.2千人 前年度比：110.6% 前年度増減数：160.3千人)

上期：上期の観光入込客数の増加は、昨年10月にオープンした「道の駅ウトナイ湖」の影響と思われる。「道の駅ウトナイ湖」では、毎月10万人前後の集客があり、イベント等なども開催されていました。上期に開催された市内のイベントも、好天に恵まれ、前年度よりも来場者が増加しました。また今年も、ラリージャパンが開催されましたが宿泊客の増加には繋がらず、観光客が増えている一方で宿泊客は前年度同期よりも減少しました。また、アジアからの観光客が増加し、外国人宿泊客数は昨年の倍以上にもなりました。

下期：前年度下期は「道の駅ウトナイ湖」がオープンしたため大幅に入込客数が増加しましたが、新規開業による集客効果も落ち着き、ほぼ前年度並みに推移しました。しかしながら、12月は市内でアイスホッケーの大会が開催されたため、前年度よりも入込客数が6.6%も増加しました。また、苫小牧市はビジネス目的の来訪者が多いため、3月の入込客数に東日本大震災の影響はほとんど見られませんでした。

(3) 登別市(入込数：3,042.3千人 前年度比：100.6% 前年度増減数：18.4千人)

上期：香港の景気回復や訪日中国人観光ビザの取得条件の緩和による訪日外国人の増加や、鬼花火や地獄まつり等のイベントの入込客数の増加により、入込客数は前年度同期比約10%、宿泊延数でも約9%の増加となりました。

下期：下期は、尖閣諸島沖の中国漁船衝突事件や東日本大震災の影響により入込客数が8.2%の減少、宿泊客延数においても8.7%減少しました。一方、平成22年度全体で見ますと、世界経済不況からの回復や、東南・東アジアの景気回復による訪日外国人観光客の増加が要因となり、入込客数は前年度よりも0.6%増加しました。

(4) 伊達市(入込数：2,211.9千人 前年度比：102.6% 前年度増減数：55.8千人)

上期：北湯沢温泉の入込客数が減少したものの、有珠山サービスエリアの入込客が大幅に増加したことにより、市全体としては、前年度同期と比較して増加となりました。

下期：平成22年度下期は、東日本大震災の発生の影響による入込客数の減少が見られたものの、北湯沢温泉を中心として入込客数に大きな変動は見られず、前年度並みに推移しました。

(5) 豊浦町(入込数：331.0千人 前年度比：88.7% 前年度増減数：42.1千人)

上期：口蹄疫発生の影響によるイベントの中止や、天然温泉しおさいやキャンプ場を中心とした各施設の入込客数の減少により、入込客数は前年度同期よりも大幅に減少しました。

下期：11月以降は、上期に発生した口蹄疫発生による影響を払拭したことにより、町内の各施設の入込客数が増加となり、下期の入込客数は前年度と比べて1.7%の減少に留まりました。

(6) 洞爺湖町(入込数：2,461.8千人 前年度比：89.1% 前年度増減数：301.7千人)

上期：洞爺湖温泉100周年記念として様々なイベント等を開催してきたことから、各宿泊施設ともほぼ対前年同期比100%からそれ以上の数字が出ましたが、一部大手ホテルの部屋数の減少により全体的な宿泊収容者数が減少したことから町全体としては入込客数が減少しました。

下期：前年度に続き、長引く経済不況が影響して入込客数の減少が続いています。前年度に新型コロナウイルスの影響を受けながらも増加した訪日外国人も、9月に発生した尖閣諸島沖の中国漁船衝突事件の影響により減少しました。さらにそれらに追い打ちをかけるように、3月に発生した東日本大震災の影響により、3月の入込客数は大きく減少してしまいました。

(7) 壮瞥町(入込数：1,576.9千人 前年度比：99.7% 前年度増減数：4.2千人)

上期：上期は昨年と比べ約6万人増加しましたが、特に、昭和新山地区の入り込みが昨年と比べて約8万人増加したことが上期の入込数の増加した主な要因となりました。しかしながら、町内施設の入込数は減少傾向が続いています。また、宿泊者数もやや減少しており、これらは洞爺湖が通過型の観光資源となっていることが原因だと考えられます。好天にもかかわらずキャンプ場の入込客数は増加しませんでした。そうべつ情報館の入込は前年度同期とほぼ同程度で推移しています。

下期：金融危機以降の不況により安近短の傾向が強まり、日帰客数は前年度並みの入込数がありましたが、宿泊客数が減少しました。また、口蹄疫発生の影響で観光客の移動が減ったこと、例年10月に開催されている「そうべつりんごまつり」が中止になったこと、さらに3月11日の東日本大震災により訪日外国人旅行者が減少し、国内旅行も自粛の動きが広がったことから、上期に回復基調にあった入込客数は下期には急減速してしまいました。

(8) 白老町(入込数：1,762.3千人 前年度比：91.2% 前年度増減数：169.6千人)

上期：前年度に続き、長引く経済不況が大きく影響し、入込客数は減少しました。

また、口蹄疫発生の影響で、牛肉まつり、港まつりの二大イベントが中止になったことも大きな減少要因となりました。しかし、本年度5年目を迎えた白老町戦略的観光推進事業や、営業活動の中で、新たな観光コンテンツを団体ツアー等に組み込んでいただいたことで、個人でもリピートしていただき、一部施設では堅調に推移しています。

下期：前年度に続き、長引く経済不況が大きく影響し、入込客数は減少しました。

特に、3月以降は東日本大震災の影響が一部の宿泊施設や飲食店、博物館等で見られ、インバウンドに主眼を置いていた施設は、大きな打撃を受けています。反面、下期は新規オープンの施設では入込客数に増加が見られたほか、上期同様、白老町戦略的観光推進事業や営業活動の成果が実り、一部施設では堅調に推移しています。

(9) 安平町 (入込数 : 326.3 千人 前年度比 : 107.4% 前年度増減数 : 22.4 千人)

上期 : 口蹄疫発生の影響で、例年開催している7月のイベントを中止しました。そのため、7月の入込数が減少しました。しかしながら、その他の月は、主にゴルフ場やパークゴルフ場において入込客数が前年度同期を上回っています。

下期 : 10月と11月は町内にあるゴルフ場の利用者数の増加、1月と2月は町内にあるスキー場の利用者数の増加により、入込数は大きく増加しました。また、8月にリニューアルオープンした町内の入浴施設も入込客数を伸ばしており、平成22年度の入込客数は総じて前年度を大きく上回りました。

(10) 厚真町 (入込数 : 138.5 千人 前年度比 : 90.1% 前年度増減数 : 15.3 千人)

上期 : 前年度同期に比べて入込客数は減少しました。口蹄疫発生の影響で、6月の「田舎まつり」と7月の「海浜まつり」が中止になったことと、6月に田舎まつりと同時開催の予定だった農業まつりが8月に単独開催となってしまったことが大きな要因となったと考えられます。9月については、こぶしの湯あつまの入込客数の減少がありましたが、隣町の入浴施設がリニューアルオープンしたことが影響したためと考えられます。

下期 : スターフェスタ・ランタンまつりが天候に恵まれたため2月の入込客数は増加したものの、隣町の入浴施設がリニューアルオープンして以降、こぶしの湯あつまの利用者が減少したことが影響し、下期全体としては入込客数が減少しました。

(11) むかわ町 (入込数 : 213.6 千人 前年度比 : 90.8% 前年度増減数 : 21.7 千人)

上期 : 各施設の入館者が減少しました。特に、口蹄疫発生の影響によるイベントの中止の影響で穂別方面の施設の入込客数が減少しました。

下期 : むかわ四季の湯、樹海温泉はくあなど、町内の各施設で入館者が総じて微減となったため、町内全体の入込客数は大きく減少しました。